

# 大阪府商店街等モデル創出普及事業『商店街等モデル普及セミナー』 ～地域の持続的発展のための中小企業者等の機能活性化について～

## 開催結果

日時 令和3年6月21日(月)から14時～(Web視聴)

対象 商業振興に関わる市町村、商工会等の職員及び商店街関係者など

### 主な内容

#### 1 中小企業庁の商業振興施策について

▶ 近畿経済産業局産業部職員から、「中小企業庁の商業振興施策」についてご説明。

・地域の持続可能な発展に向けた政策の在り方を研究した結果、商店街は商店街に対するニーズ変化に対応し、商店街の強みを活かした『商店が集まる街』⇒『生活を支える街』へと自己変革が必要。

・商店街は3パターンに類型化され、以下の類型別課題に応じた対応が必要。

- ① 単独型…既来街者の利便向上、域外来街者からの多様な商業需要を取り込むため、受入整備と情報発信
- ② 複合型…地域の商業需要以外の多様なサービス需要を取り込むため、地域ニーズ把握と応じた機能整備
- ③ 転換型…域外事業者(アグリゲーター)と広域連携するなど地域住民の買い物機会を提供し商業機能維持

#### 2 事例紹介

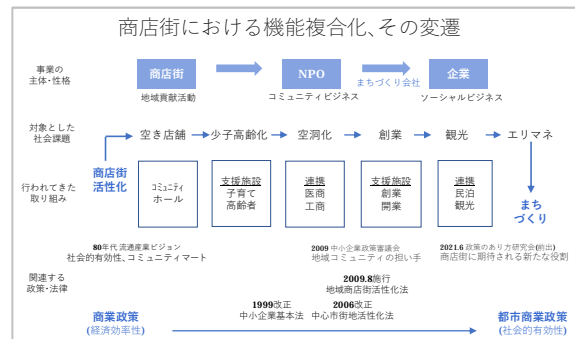
▶ (株)プランニングコンサルタント代表取締役 大橋 賢也氏から、「商店街における機能複合化の意味、事例」についてご講演。

・「商店街は時代とともに変化。商店街には地域に無くてはならない存在として、“商店が集まるまち”から“生活を支えるまち”へと自己変革すること必要。そのためには、地域の中でニーズ把握やどのような機能が求められているのかを話し合う場を設けることが重要。」

・「商店街、機能複合化のポイントは、①「色々な人が、利用できる場を創り出す」(店舗・商業者に限らない)、②「事業主体を明確にして、採算を合わせる」(有効なまちづくり会社、サブリース)、③「時代は地域経営を求めていると心得る」(民の公共、エリアマネジメント)こと。」

・「機能複合化のタイプは大きく2つ。商店街による空き店舗活用型とまちづくり会社によるエリアマネジメント型。」

・「エリアマネジメント型の先進事例が油津商店街。4年間で29店舗オープンさせ、今も維持・発展を継続。油津応援団は、「自分たちの手で、自分たちの未来を創る」という強い信念と覚悟の元、事業コンセプトを明確にし、独立採算で事業を実施。現在は、「創る」から「続ける」の段階。詳細は、黒田代表のご講演にて。」



機能複合化の先例			
象徴的施設	地域コミュニティ支援機能		
	商店街による 空き店舗活用型	越谷新町商店会・越谷市 頼まちづくり越谷	まちづくり会社による エリアマネジメント型
	山之内商店街-堺市 堺山之内まちづくり(合)		油津商店街-日南市 頼油津応援団
MADO 古漬・醤油博物館		Office803	油津yotten, 油津食堂, aburatu garden
子育て支援 高齢者支援 子供食堂 ゆめチャレ		シェアキッチン	○
創業 コワーキング		シェアオフィス	○
リノベーション サブリース	オフィス、醤油博物館		○
医療連携 工務連携	緑香組合・定時制高校	コアキアビル 技術	○
民泊 観光 他	利島の杜他	まるこWAONカード	○

黒田 代表のご講演にて

### 3 基調講演

▶ (株)油津応援団代表取締役 黒田 泰裕 氏から、「シャッター街を4年で再生『油津が提示する商店街のかたち』」と題して、宮崎県油津商店街での取り組みや今後の商店街活性化の可能性等についてご講演。

- ・「商店街の課題を解決することが、市の課題を解決することにつながる。空き店舗対策、雇用問題、若者の定住と移住対策、子育て世代のための環境づくり・創業対策など。」
- ・「油津では対策として、①カフェがまちをつくる、といった考えから「アブラツコーヒー」をオープン。②多世代モールとして、市民のたまり場となる「yotten」を設置。③IT 企業を商店街に誘致し、150名の雇用を創出。④地域資源を活かすため、カープ球団のファンが立ち寄る資料館のオープン、など。」
- ・「まちに必要と考えているのは、人が集まる場（つなぎ場・たまり場）、人が集まる場所、夢が見られる場所、良いものがある場所、安心して快適な場所、自分のためになる場所、自分を認めてくれる場所、こうした場所に人は集まると確信。」
- ・「結果、4年間で 29 店舗（店舗、企業）がオープン。商店街をビジネスの場に変化させ、多くの人たちが活躍できる場・創業と雇用の場に進化。」
- ・「この間を振り返って、効果的だったと考えられる取り組みは、
  - － 市民のたまり場「yotten(多世代モール)」の設置。収益のあがりにくい施設を油津応援団が運営。
  - － 行政と民間が連携して企業誘致。市が IT 企業にアプローチ、油津応援団が空き店舗のリサーチ。
  - － よろず支援サテライトの設置。中小企業庁のよろず支援拠点を商店街にも設置し創業支援や企業支援。」
- ・「持続可能な商店街づくりに必要なことは、市民を巻き込み店づくり、まちの応援団を集めること及びまちをプロデュースする人材育成。」



地域コミュニティや住民の目線に立った  
商店街のあり方 (油津商店街)

・若年者の働く場作りや消費人口拡大のため、IT企業（システム開発）のサテライトオフィス等を空き店舗に誘致（SNS 広告、ゲーム制作等の12社）。空き地・空き店舗での飲食・物販店舗など、若年者の出店・創業を支援。保育園・子育て支援施設建設を商店街内に整備しIT企業等での子育て世代の雇用も獲得。



子育て支援施設



アブラツコーヒー

### 4 大阪府の商業振興施策について

▶ 府職員から、大阪府商店街等モデル創出普及事業等を説明。

- ・ Web セミナー形式で開催したことで、視聴者自身の状況に合わせていつでも学んでいただけるようになりました。
- ・ 視聴者からは、油津商店街などの先進事例について、大変分かりやすく説明いただき、よく理解できた。今後の商店街活性化の参考となる意見が聞けた、という声が寄せられました。

大阪府では、商店街活性化のモデル創出と、その成果の普及に取り組んでいます。

その一環として、地域商業の活性化に関する先進的な事例の共有や成果の普及を目的に、セミナーを開催しています。